

平成 27 年度第 15 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「春を探そう！！早春の生き物観察会」を実施しました。

開催日時：平成 28 年 3 月 5 日（土）午前 10 時～午後 2 時 30 分

開催場所：茨城県霞ヶ浦環境科学センター野外施設および展示室・学び舎

参加者：12 名

今回の観察会では身近な水辺な自然にも多くの生き物が生息していること、また寒さが残るこの季節に、早くも暖かな季節に向かって生き物が準備していることや、生き物によってはまだほかの生き物が活動する前をねらって早春に活動するものなど、さまざまな早春の生き物の姿を観察しました。

まずは、センター上池に産み付けられたニホンアカガエルの卵塊とその幼生（オタマジャクシ）、数日前に産み付けられたばかりのアズマヒキガエルの卵塊を観察しました。同じカエルでも、大きな球状をしたニホンアカガエルの卵塊と長くひも状に伸びたアズマヒキガエルの卵塊では形が全然違うことに驚きました。またアズマヒキガエルの卵塊のそばにはその親かも知れない成体の大きなアズマヒキガエルがじっと動かずにいるのも見つけました。

続いては植物観察。樹木の冬越しには冬の間も葉を付ける常緑樹と春から秋の間だけ葉を付け、この季節は葉のない落葉樹があります。ドングリとよばれる実を付ける樹木にも常緑樹のシラカシや落葉樹のクヌギなどがあります。また、草の冬越しも、種子で冬越しするもの、ロゼットと呼ばれる葉を放射状に地面に張り付けて、寒風や地面の暖かさを利用するもの、前年の秋には芽生えていて、他の植物の前に花を咲かせる冬型一年草と呼ばれる、オオイヌノフグリやホトケノザなど様々です。池のまわりには地下茎で冬を越すヨシやガマも見られました。またカワツザクラは花の盛りをやや過ぎ、葉が芽吹き始めていました。

続いては「中池」で、生き物の採集を行いました。短い時間でしたが、いろいろな種類のヤゴ、カゲロウの幼虫、ヌマエビ、モノアラガイ、マツモムシ、ハイイロゲンゴロウなど、たくさんの生き物が見つかり、この季節の小さな水辺にも多くの生き物が生息していることに驚きました。

昼食・休憩のあとは、午前中に採集した生き物観察やヤゴなどの水生生物の分類、草花や樹木の花や芽、葉などを双眼実体顕微鏡で拡大して観察などを行いました。ヤゴはヤンマ系のヤゴや赤トンボ系のヤゴ、イトトンボ系のヤゴなどに分類しました。また泳ぎ方や顕微鏡で拡大することで、イトトンボ系のヤゴと見分けの付きにくかったカゲロウの幼虫も見つけました。マツモムシがアカムシを捕食する姿を観察したり、カエルの卵も拡大して観察してみたりしました。拡大してみることでよく知っている生き物にも新たな発見がたくさん見つかりました。

今年度の最後の自然観察会でしたが、来年度の自然観察会でもいろいろな視点から霞ヶ浦の自然や環境に接するプログラムを企画したいと考えております。

参加者のみなさん、パートナーのみなさんありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人

観察会の一部を御紹介します。



カエルの卵を観察中



ニホンアカガエルの卵とアズマヒキガエルの卵



ドングリを観察しています。



「中池」にて水生生物採集



カワツザクラ



展示室学び舎で、生き物の分類や観察を行いました。